

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年7月31日現在

(専技情報より抜粋)

◇早生水稲(夢つくし、コヒカリ)◇

4月中下旬植「コヒカリ」「夢つくし」の収穫適期は、平年よりやや遅く8月17～27日頃の見込みです。降雨が多いため、出穂から穂ぞろい期の防除が遅れています。穂数は平年より少なく、出穂後の日照不足の影響により、登熟歩合が低下し、作柄はやや不良の予想です。

収量、品質向上のため早期落水しないようにしましょう。ウンカ類、カメムシ類の対策を徹底しましょう。気温が高いため、刈り遅れにならないよう適期に収穫を行いましょう。

◇普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒビカリなど)◇

7月の低温、寡照の影響で、草丈は高く、茎数は少なく、軟弱徒長となっています。生育は、平年に比べ5日程度遅れ、浸冠水の被害を受けた地域はさらに遅れています。6月上中旬植「夢つくし」の出穂期は、平年よりやや遅い8月12～15日頃の見込みです。暖冬の影響と多雨によりスクミリンゴガイの被害が多いです。葉いもちの発生は少ないです。トビイロウンカの発生は過去10年間で最も多く、注意報が7月14日に発表されています。コブノメイガの発生も非常に多いため、今後の発生に十分注意しましょう。

有効茎数が確保され次第中干しを実施し、中干し後は間断かん水とし、特に、出穂・開花期の水は切らさないようにしましょう。葉いもちは初発時に早急に対策を講じましょう。トビイロウンカ、コブノメイガの対策を徹底しましょう。カメムシ類対策として、出穂前10日までに畦畔草刈りを行いましょう。

◇大豆◇

7月20日までの播種進捗割合は29%(前年同期41%)であり、梅雨明けが遅れ、播種の終了は8月上旬までかかる見込みです。7月中旬播種は、播種後の大雨による浸冠水で、一部出芽遅れや苗立不足がみられます。雑草の発生は全体的に少ないが、今後、帰化アサガオ類などの発生に注意しましょう。

天候が回復次第、できるだけ早くに播種しましょう。周囲溝や排水溝の整備を行い、梅雨明け後に播種を行う場合は、播種深度を深くしましょう。本葉3葉期から6葉期までに中耕・培土を行いましょう。梅雨明け後は、本暗きよの栓を閉めて、播種後の乾燥防止に努めましょう。また、雑草の種類に応じ、中期の対策を徹底しましょう。

◇青ねぎ◇

7月上旬までは生育良く、出荷は順調でした。7月5日の豪雨で約33haのほ場が冠水(朝倉センター管内)し、は種直後～出芽間もないほ場は出荷可能であるが約10haは全く収穫できません。浸水したほ場は一部で倒伏等により収穫できなくなることや冠水したほ場のまき直しなどにより、今後、1か月半～2か月の出荷量は減少する見込みです。病害虫の発生は全体的に少ないです。

葉先枯れ対策として、土壌の過乾燥防止のため適宜かん水を行いましょう。高温と強日射は葉先枯れの発生を助長するため、遮光資材を活用し、降温対策を行いましょう。また、ネギコガ、ネギハモグリバエ等の害虫防除対策を実施しましょう。

◇カキ◇

生理落果は、開花前の低温等で前年より多く、着果量は平年より少ないです。果実肥大は、現時点では平年並みです。越冬量が多いカメムシは、予察灯での誘殺数が多く推移し一部の園で被害が出ています。「秋王」は、6月下旬以降の天候不良で前年より落果が多く、樹勢が強い樹や若木等で収量に影響します。

生理落下終了を待って摘果を行うとともに、生理落下が多かった園では病害の防除を徹底しましょう。カメムシは指導機関からの情報をもとに適期に防除を行いましょう。

◇モモ◇

中生・晩生種の出荷中です。6月下旬以降の日照不足や長雨による落果や果実品質の低下とともに、7月上旬の強風で枝折れが発生し、出荷量は昨年を下回ります。

収穫後は、土壌の乾燥具合に応じて、かん水を実施しましょう。また、樹勢が弱っている樹では礼肥を施用しましょう。あわせて、せん孔細菌病やハモグリガ等の病虫害防除を行いましょう。

◇施設ギク◇

「精の一世」「フローラル優香」等の夏秋ギク品種が出荷中です。8月の盆需要向けの作型は、7月の気温が平年より低く推移したため、花芽分化、発達が順調に進み、高温による開花遅延も無く、収穫ピークは例年に比べ前進化する見込みです。コロナ禍の影響で需要が減少し、下位等級品の出荷停止等で、出荷量が減少、価格も低下傾向です。一部のほ場で白さび病、アブラムシ類の発生が散見されます。11～12月に出荷する秋ギクの採穂・育苗が始まっており、8月中旬以降、随時定植予定です。

定植3日前までには、寒冷紗等を被覆し、施設内の地温を下げましょう。定植から活着までの1週間程度は、十分なかん水を行いましょう。定植用の穂は採穂前の殺菌を徹底し、苗立枯症対策を徹底しましょう。

◇露地ギク◇

県内の露地ギク主産地は、福岡、飯塚、京築地域であり、6月から11月までの出荷です。8月盆需要向けの作型は、6月下旬以降の日照不足や長雨により下葉の黄化や枯上がりが見られます。また、5～6月が平年より高温で推移し、7月以降が低温傾向で、高温による開花遅延もないため、7月末～8月上旬出荷の見込みです。一部で白さび病や黒さび病が見られます。

梅雨明け後の高温・乾燥による葉やけが発生しないよう適切な水分管理を行いましょう。アザミウマ類、ハダニ類の対策を徹底しましょう。ウイルス病発症株の廃棄を徹底しましょう。

◇畜産◇

7月の豚枝肉価格は、米国の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で輸入品の供給不安及び全国的に出荷頭数が減少（対前年6%減）しているため、前年比116%、過去5年平均比111%と上昇しました。鶏卵価格は、供給過多で、前年並みであるものの過去5年平均比86%、3か月連続で低下しています。

厳しい暑さが続くため、暑熱対策を徹底し、ビタミンやミネラルを強化しましょう。飼料イネのトビイロウンカの対策を徹底しましょう。